

平成27年度第1回工学分野連携グループの合同委員会議事録
学系別FD/ICT活用研究委員会（機械工学、建築学、経営工学）
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（電気通信工学、土木工学）

I. 日 時：平成27年9月29日（火） 18:00～20:00

II. 会 場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）7階妙高

III. 出席者：機械工学 角田担当理事、田辺委員長、青木委員、高野委員、
建築学 衣袋委員長、澤田委員、大内委員、渡辺委員、松岡委員、関口アドバイザー
経営工学 渡邊委員長、井上委員、水野委員、後藤委員、中島委員、佐々木委員、小池委員
電気通信工学 新津委員、小林委員、岳委員
土木工学 栗原委員、北詰委員（Skype）
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 担当理事挨拶、委員の紹介

委員会開催にあたり、担当理事から今年度の取組みを含めて挨拶があった。また、各委員の自己紹介が行われた。

IV. 議題概要

1. 対話集会の目的、計画、進め方などについて

学生の主体性を引き出し、伸ばす授業が求められることから自ら問題を発見し、答えを見出し実践できる力を育むアクティブ・ラーニングについて、昨年度は分野ごとにアクティブ・ラーニングのイメージについて共有した。今年度は「対話を通じて課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法とそれを実現していくための授業運営の工夫」、「組織的に推進していくため教学マネジメントの工夫」について対話集会を通じて考察を行う。

対話集会は、分野連携のグループ編成で行い、工学系は機械工学、経営工学、建築学、土木工学、電気通信工学のグループで開催し、開催日は11月、12月の土曜、日曜、祭日も候補として話題提供1時間、質疑応答30分、意見交換1時間30分で合計3時間を予定することになっている。

2. 話題提供や意見交換のテーマなどについて委員の意見

- ・ 入試改革があることから、初年次やその前から連携し、どのように質保証していくのか。
- ・ JABEEを参考として質保証、海外との協定、応用の場面で例えば経営工学技術の活用など。
- ・ 固有技術としての物づくりと管理技術を守る上でのアクティブ・ラーニングの必要性。
- ・ 学部の理念・方針を中心とした教育科目の設置により、何を学ぶのかを明確化すること。
- ・ 1年から興味を持たせるため、演習などの経験を通じて問題を把握させ理論を学ぶこと。学科を超えた連携、分野横断、他分野から意見を求める教育が望まれる。
- ・ 効果があるか、評価をしっかりとする必要があり、授業前後で実施効果を見える化できないか。例えば、グループ討議の成果は、就職時の最終面談結果に自然に身につけているのではないか。
- ・ 希望としては、入社5～10年で役立ったかどうかを成果として考えたい。
- ・ 実験で失敗をさせる経験などアクティブ・ラーニングで授業実践したものを共有できないか。

- ・ 社会にどのように役立っているかを理解させるため、地域の安全マップなど社会貢献例や、マネジメント・現地ビジネスのできる概念の説明する必要があるのではないか。
- ・ 今の科目について、教養を増やす、学科・内容で意識のずれなど科目編成について広く検討の必要があるのではないか。
- ・ 教員が変わること、教員にモチベーションを持たすことについては、学生の変化が実感できたことや効果が出た事例が参考になるのではないか。
- ・ シラバスを教員同士で理解し合うこと、カリキュラムツリーを通じて確認し合うことが大切ではないか。
- ・ 学内でアクティブ・ラーニング事例紹介を行ったが、現状はどのような授業をすることなのかと質問する理解に留まっている。
- ・ 学生が自分の課題や到達目標を決める、解決する手法を考える事例が良いのではないか。また、TAが付いて指導する環境が良いのではないか。
- ・ 初年次に自ら考え取組むことや入学前に底上げのための体験教育など参考にならないか。
- ・ アクティブ・ラーニングの評価・効果、問題点、対策などの事例から認識の共有化を図ってはどうか。
- ・ 知識の定着から応用、創造までそれぞれに対応したものがあるか、OBの話などは社会をイメージさせる効果があるのではないか。勉強の仕方、カリキュラムの見直し、授業数・時間など学生の負荷も考慮する必要があるのではないか。
- ・ アクティブ・ラーニングはまだまだ普及していないこともあり、分野横断でどのように展開するのかを含めて、推進する教員の数を増やす必要があるのではないか。また、組織としてシステム化を図る教学マネジメントの取組みが必要ではないか。
- ・ 工学系ではどのような話題があるのか、失敗や失敗しながら工夫したことも参考になるのではないか。苦労されたプロセスや教員・組織・第三者による支援など参考になるのではないか。

以上の意見から話題提供や意見交換のテーマについて以下に整理する。

- ・ 組織としてシステム化された教学マネジメントについて
- ・ 分野横断、教員連携によりどのように展開するかについて
- ・ 質保証のためのアクティブ・ラーニングについて
- ・ 物づくり、管理技術、社会への影響・役立ちを通じて学生が何をえられるか質の設定の仕方について
- ・ 失敗をしながら苦労、工夫してきたことについて
- ・ 学生がかかった効果が実感できたことについて
- ・ 学生が自ら課題や目標などを考えて進める取組みについて
- ・ アクティブ・ラーニングの評価方法をどのようにしているかなど

V. 今後の予定

次回は11月10日(火)または17日(火) 18時～20時で第2回工学分野連携グループの合同委員会を行い、対話集会の開催要項を検討することにした。

また、メールで話題提供者の候補案を自薦他薦で募り、開催日・会場についても調整することにした。